令和８年度　第 32 軍司令部壕発掘調査　調査概要

１　はじめに

第 32 軍司令部壕の発掘調査は、整備・公開を検討するうえで必要となる、遺構の位置・規模・残存状況などを確認するために、令和５年度から行われている。これまでの調査によって、第１坑口の場所を特定したほか、第５坑口の構造を明らかにするなどの成果が上がっている。

今年度は、第１坑口周辺の遺構確認を目的として、４か所のトレンチ（合計面積 26 ㎡）を掘削し、通路４の簡易測量を行った。調査期間は８月４日から９月 10 日までの約１か月であった。

２　調査成果

（１）トレンチ１～４、通路４

トレンチ１は、第１坑口から北に延びる通路１の延長部分を検出するために、４×３ｍの規模で設定した。地表から約 2.5m掘削した結果、戦後に設置された公衆トイレの基礎跡を全面で検出した。戦前の遺構を検出するために、トレンチの範囲を南側へ１ｍ拡張して掘削したが、ここでも基礎跡を全面で検出した。基礎跡は横断面が凸型で東西に延びており、凸型下部から南北に床面が広がる構造である。これらの遺構はトレンチの範囲外にも広がっているため、全容は把握できていない。床面の標高は約 100ｍで、その一部を削岩機で掘削したところ、厚さは 18 ㎝であった。また床面の直下には、地山と考えられる青灰色粘土層を検出した。これらの状況から、トレンチ１とその周辺については、公衆トイレの設置工事によって、標高約 100ｍより高い部分に存在した戦前の遺構が破壊されたと考えられる。

トレンチ２は、建物２に接続する通路を検出するために、３×２ｍの規模で設定した。地表から 30 ㎝前後掘削した段階で、近世後半から近代の遺物を含むオリーブ褐色土を検出した。この土層は、東から西に向かって緩やかに下って、その後平坦となっており、沖縄戦時の地形をある程度残している可能性がある。

トレンチ３は、建物１の屋根の南西隅を検出し、建物の規模を確定するために１×１ｍの規模で設定した。地表から約 1.5m掘削した結果、建物１の屋根を全面で検出したため、トレンチの範囲を南西側に約２ｍ拡張して掘削した。その結果、屋根の南辺を検出することができたため、建物規模が 10ｍ×4.3ｍであることがわかった。また、屋根の上には約１ｍの厚さで土が盛られていることも確認できた。建物１の屋根の厚さは 60 ㎝前後となっており、他の建物に比べ薄い造りであることから、盛り土によって屋根全体を補強していた可能性がある。

トレンチ４は、建物２内部の天井高を確定するために、１×１ｍの規模で設定した。トレンチ内に広がっていたガジュマルの根を撤去し清掃を行った結果、天井高は２ｍであることがわかった。

通路４では、内部の状況を確認するためにファイバースコープを使い、簡易測量を行った。その結果、建物３から 3.6mほど南に進んだ地点で、崩落したコンクリート片や土砂によって行き止まりとなることがわかった。また、通路内の東壁や天井は比較的残りが良いが、東壁にもたれかかるように西壁が崩れていることがわかった。さらに床面については、２段の階段があり、南に向かって緩やかに上がっていくこともわかった。通路３を南に延長すると建物４の出入り口に到達することから、建物３・４は通路３によってつながっていたと考えられる。

（２）第１坑口と各遺構の関係

第１坑口に直結する通路１からは、枝分かれするように通路２・３が延びており、建物１と接続している。通路１は建物２付近まで伸びていたと考えられるが、トレンチ１では戦後の公衆トイレ設置工事の影響により、遺構を確認することはできなかった。トレンチ２で検出した平坦面は、通路１の床面に相当する可能性がある。

ハンタン山石畳道を挟んで東側には、通信所として使われた建物３・４や、それらに接続する通路４・５がある。通路４の調査によって、建物３・４が通路で結ばれていた可能性が高いことがわかった。

かつてハンタン山石畳道の両脇には、高さ１ｍ以上の石積が付随していた。坑口エリアと通信所エリアを行き来する場合、これらを横断していく必要があったと考えられるが、専用の通路などは確認されていない。ただし、通路５の出入り口が東側石積を一部壊して接続していることから、直接石畳面にアクセスできる構造となっている。対面する西側石積については、意図的に破壊して通路状にしたような場所は確認されていない。

（3）建物一覧表（すべて鉄筋コンクリート製）

名称	外側			内側			天井の厚さ	壁の厚さ	概　要
	長さ	奥行き	高さ	長さ	奥行き	高さ			
建物1	9.4m	4.4m	2.9m	8.2m	2.5m	2.0m	0.6m	1.0m	天井には外部とつながる円形の穴が1か所ある。出入口は2か所あり、南側の出入口は、通路2によって第1坑口とつながる。
建物2	10.0m	4.4m	3.6m	8.2m	2.5m	2.0m	1.5m	1.0m	天井には外部とつながる穴が2か所ある。穴1は、35㎝×18㎝の長方形で、東側入り口部分にある。穴2は西側中央にあり、直径15㎝の円形で、内部は陶管で仕上げられている。出入口は2か所ある
建物3	9.9m	4.4m	4.4m	8.0m	2.5m	2.0m	2.0m	1.0m	内壁や天井には、電線を固定する碍子（がいし）が残る。内壁には、アンテナ線を出していたと考えられる円形の穴、無線機の熱を排出する煙突がある。出入口は2か所あり、西側の出入り口からは通路4が伸びて建物5とつながる。
建物4	10.2m	4.6m	4.2m	8.1m	2.5m	2.0m	2.0m	1.0m	出入口は2か所あり、西側の出入口は、通路5によってハンタン山石畳道の石積に接続する。

（4）通路一覧表

	構築方法	概　要
通路1	露天掘り	第1坑口から北東に延びている主要な通路。部分的に床板が残っている。
通路2	露天掘り	第1坑口から北西に延び、1m以上の段差を上がって建物1とつながる。部分的に床板が残っている。
通路3	露天掘り	建物1からゆるやかに下りながら東に延びている。通路1とつながる可能性がある。
通路4	鉄筋コンクリート製のトンネル	建物3から南西に延びており、建物4に接続する可能性がある。床の一部には階段があり、南西に向けて緩やかに上がっていく。壁や天井が崩壊している。通路内の幅は0.8m。
通路5	鉄筋コンクリート製のトンネル	建物4から西に伸び、ハンタン山石畳道の石積に接続する。通路内の幅は1m前後、長さは13.2m。



図１　第１坑口周辺の平面図



写真１　トレンチ１　オルソ画像



写真２　トレンチ１（西から）

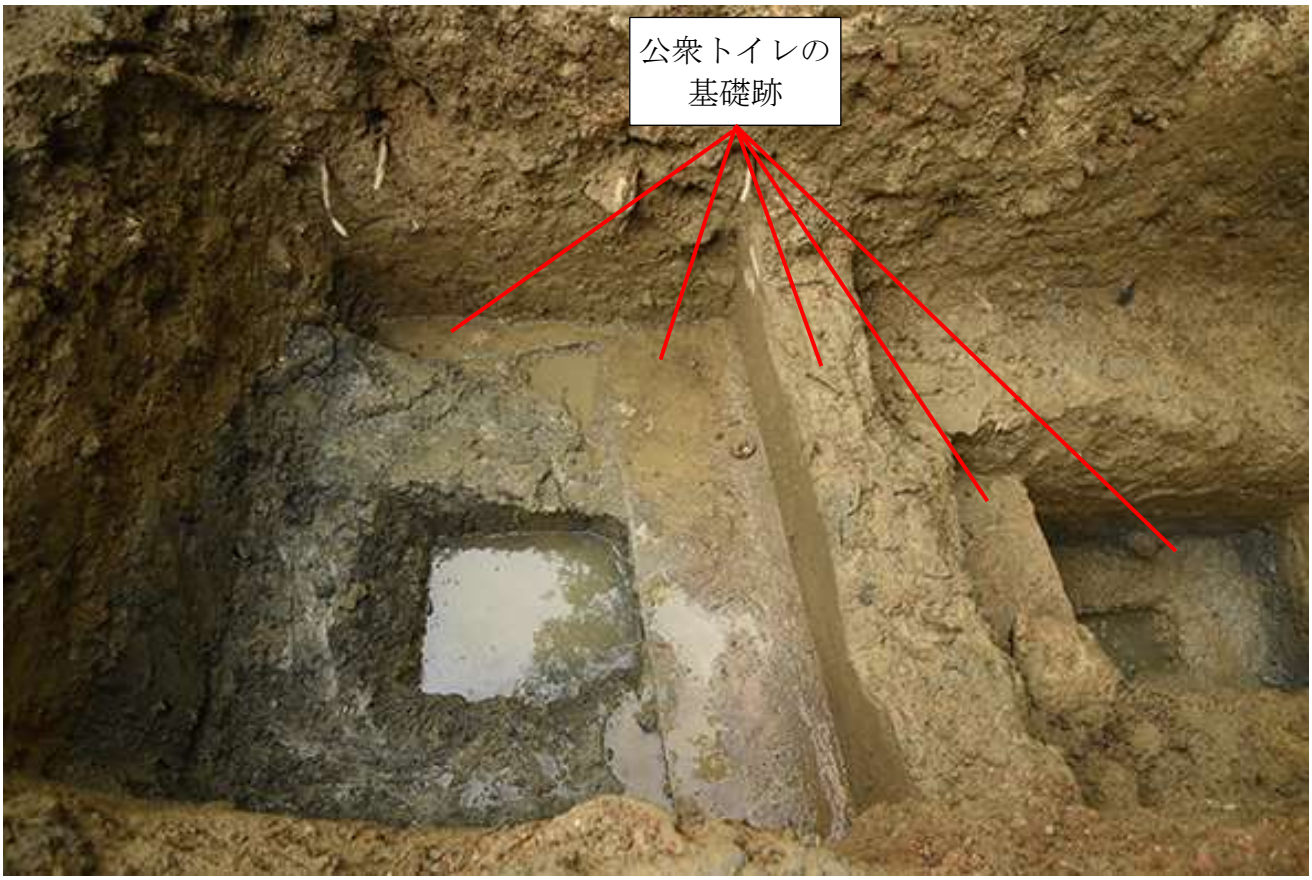


写真３　トレンチ１（東から）



写真４　トレンチ２　オルソ画像（上が西）



写真５　トレンチ２　北壁

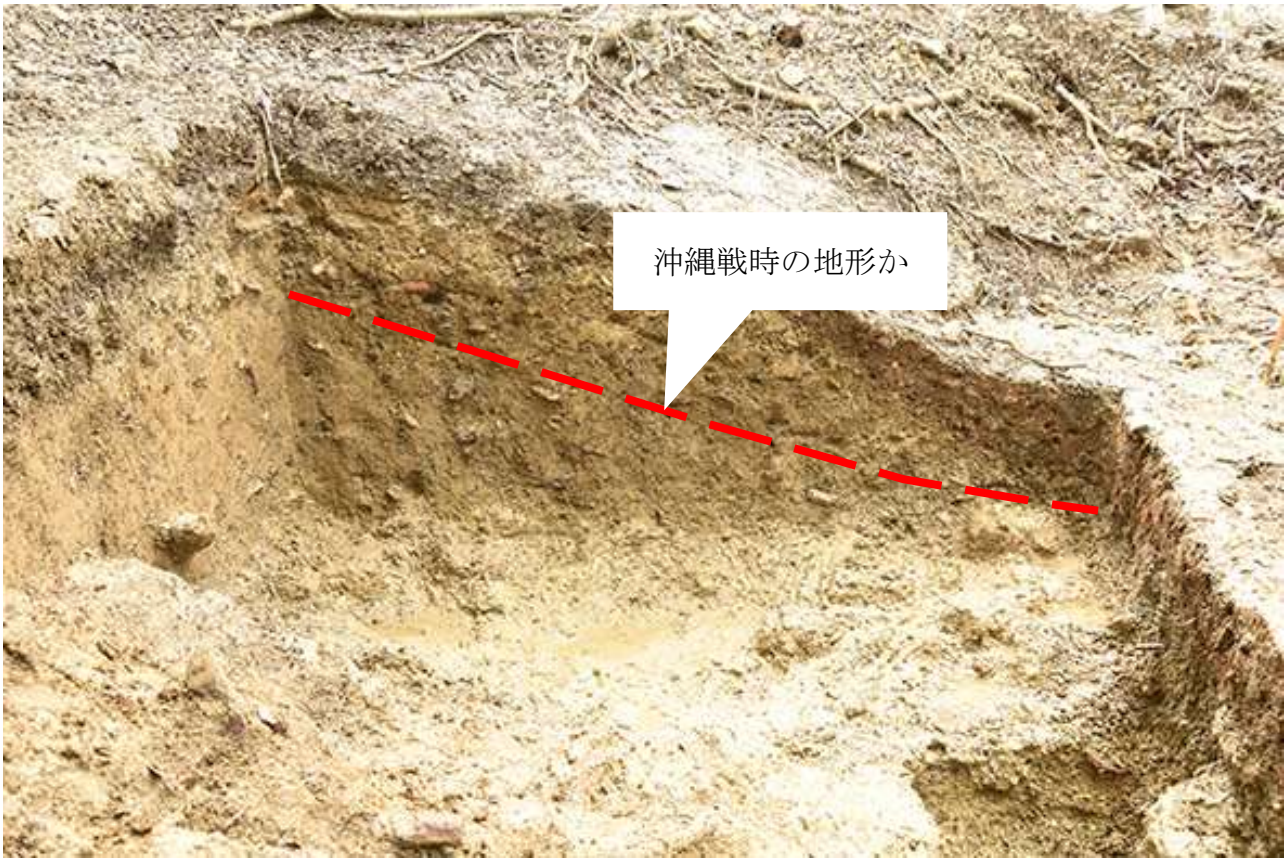


写真６　トレンチ２　南壁



写真７　トレンチ３　オルソ画像（上が西）



写真８　トレンチ３（西から）



写真９　トレンチ３（上が南）



写真 10　トレンチ４（東から）



写真 11　通路 4 内側　東壁（北西から）



写真 12　通路４内側（北から）



写真 13　通路４外側（西から）